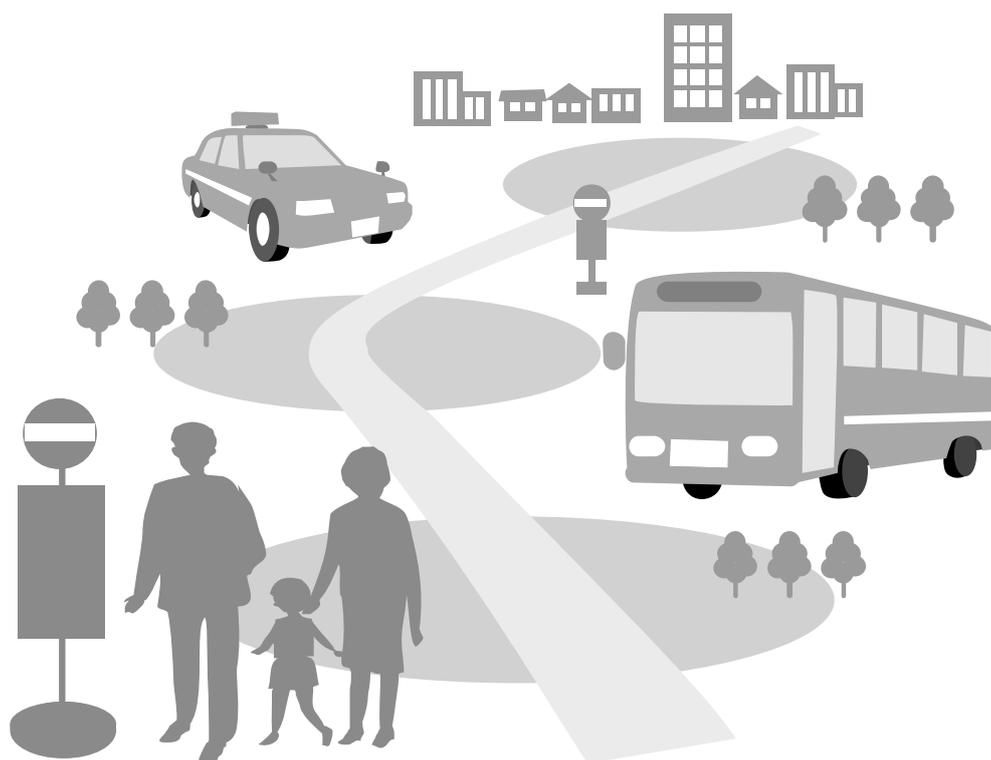


久喜市公共交通検討報告書

(素案)



平成23年 6 月

久喜市公共交通検討委員会



目次

第1章 検討の概要	1
1 検討の背景と目的	1
2 検討対象地域	2
3 検討の流れ	3
第2章 久喜市の現状	4
1 上位・関連計画	4
2 都市特性	6
3 交通特性	16
第3章 市民ニーズ把握	28
1 市民意識調査	28
2 団体ヒアリング調査	32
第4章 先進事例、近似事例の研究・検討	33
1 コミュニティバス拡充の事例	33
2 デマンドバスの事例	35
3 先進事例、近似事例のまとめ	40
第5章 久喜市におけるバス交通等に関する課題の把握	42
1 現況及び市民ニーズからみた課題	42
2 課題のまとめ	43
第6章 久喜市における公共交通のあり方	44
1 基本理念と基本方針	44
第7章 地域生活交通網(案)の検討	47
1 検討の視点	47
2 新たな地域生活交通網(案)	51
第8章 今後の事業の進め方	58
1 行政・市民・事業者等の役割分担	58
2 事業化に向けた検討課題	59
3 実現に向けたプログラムの検討	60

第1章 検討の概要

1 検討の背景と目的



検討の背景と目的

平成22年3月23日、久喜市、菫蒲町、栗橋町及び鷲宮町の1市3町が合併し、新「久喜市」が誕生しました。

新「久喜市」は埼玉県東北部の中心都市として、すべての住民が安心して暮らせるまちづくり、次世代に誇りを持って継承できる新しいまちづくりを実現するための取り組みを「新市基本計画」に示しています。

その取り組みのひとつとして、新「久喜市」の一体的かつ永続的な都市活動を支え、市民生活に不可欠な公共交通の確保を図ることが求められています。

また、急速に進展する少子・高齢社会への対応、深刻化する地球環境問題への対応、厳しい財政状況など、公共交通を取り巻く社会経済状況は大きく変化しています。

こうした合併に伴う変化や社会経済状況を踏まえながら、現在久喜地区内で運行されている市内循環バスを中心とした公共交通の再編のあり方について検討することを目的とします。

検討の位置付け

- ・市民のための望ましい公共交通の方向性、バス交通網のあり方を示すものです。
- ・本検討で示す基本方針を受けて、具体的な事業の実現を今後目指すものです。

2 検討対象地域



検討対象地域は、久喜市全域とします。

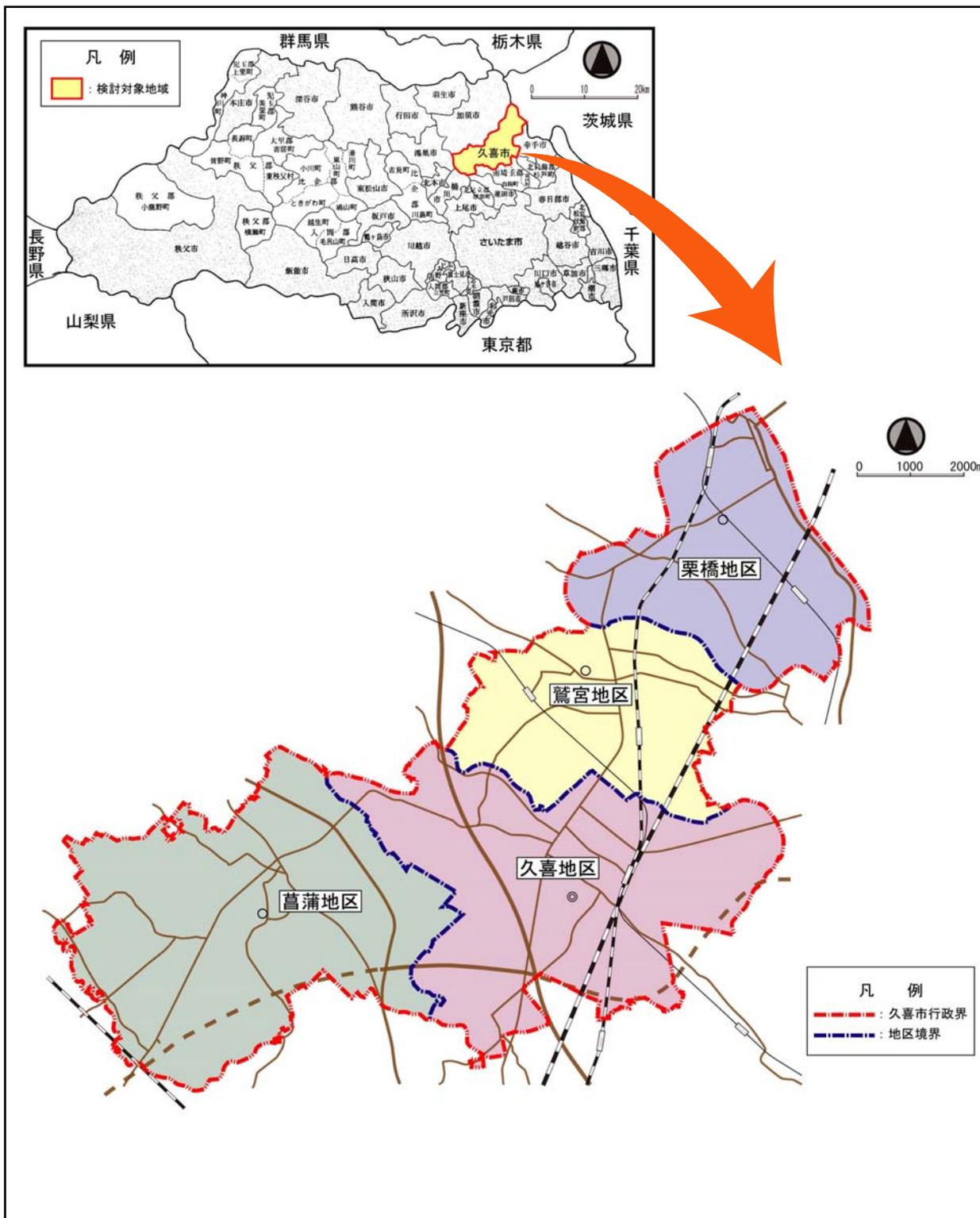
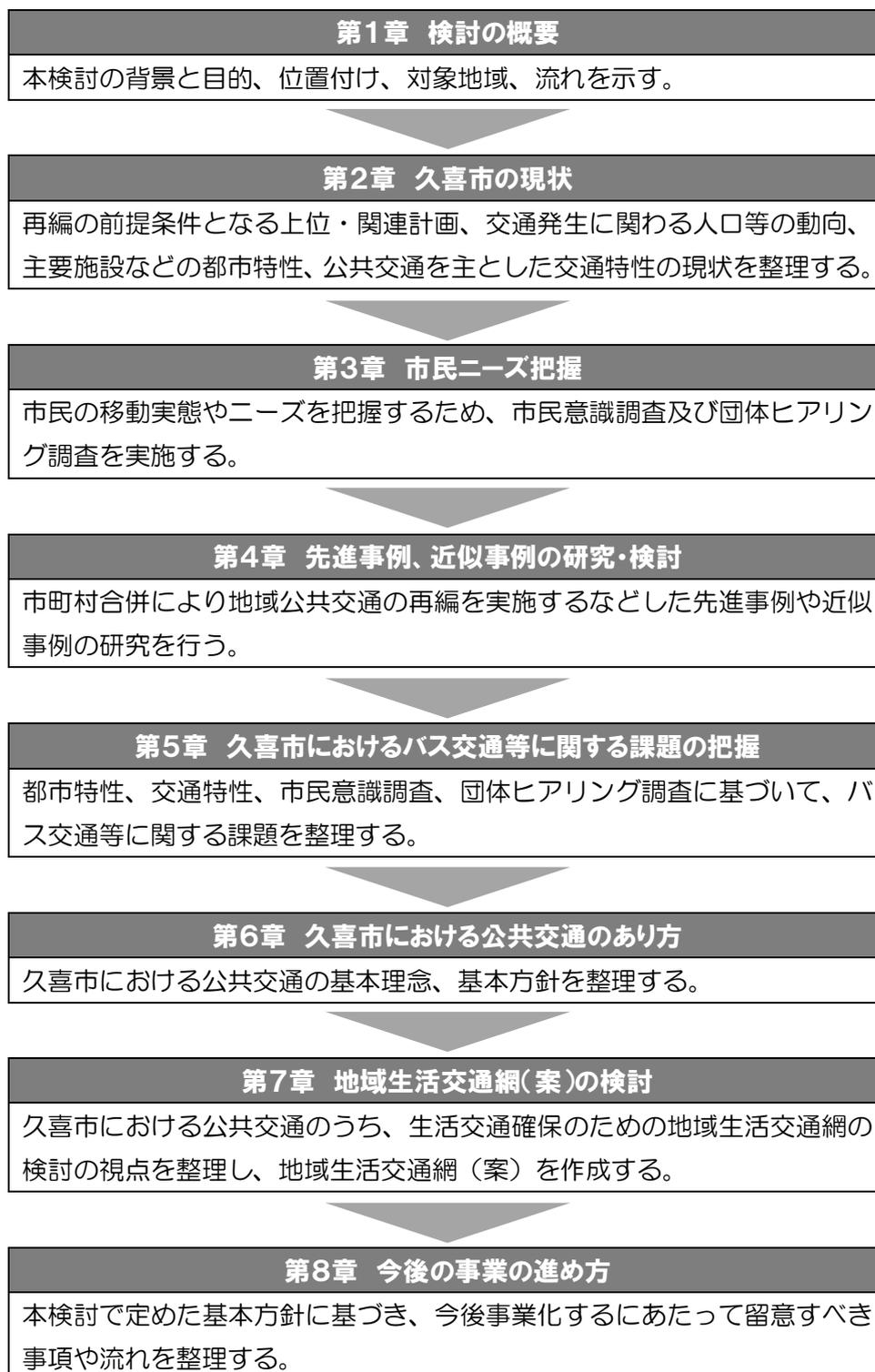


図 検討対象地域

3 検討の流れ



第2章 久喜市の現状

1 上位・関連計画



(1) 新市基本計画

「新市基本計画」では、4つの基本理念を掲げています。

基本理念は、自然や環境問題に配慮し、あらゆる世代の人が安全・安心に暮らせるまちづくりを「協働」の考えに基づき、市民を主役として進めていく考えを示したものです。

本検討は、この基本理念に基づき、安全・安心な暮らしを支えるひとつとして、公共交通を協働により市民主役で検討していくものです。

■基本理念

基本理念

- 共生を大切にすまちづくり
- 協働のまちづくり
- 安全・安心を重視したまちづくり
- 市民主役のまちづくり

■将来像

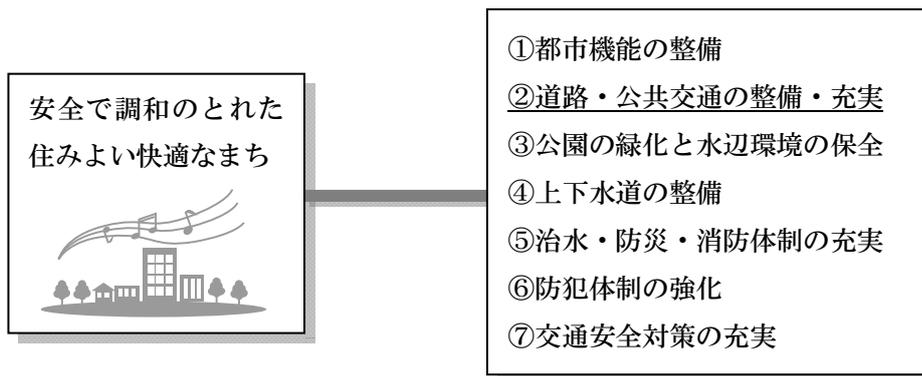
「新市基本計画」では、まちづくりの基本理念を基に、市の将来像を以下のとおり定めています。

将来像

豊かな未来を創造する個性輝く文化田園都市
～人と愛、水と緑、市民主役のまち～

市の将来像を実現するため、主要な施策の体系的展開を図ることとしています。

公共交通については、「安全で調和のとれた住みよい快適なまち」の「②道路・公共交通の整備・充実」が掲げられています。



■道路・公共交通の整備・充実の主要事業

道路・公共交通 の整備・充実の 主要事業

- 新市の一体化を促す幹線道路の整備
- 生活道路の整備
- 人に優しい道路づくりの推進
- 公共交通の充実促進

(2) 合併協議

◆合併調整方針[合併協定項目 25-5 交通・防犯関係事業]

市内循環バス運行事業については、合併後に再編する。久喜市の事業については、合併後1年以内に今後のあり方について検討する。

◆最終調整結果

久喜市の市内循環バス運行事業については、現行どおり存続し、公共交通機関をどのように新市において取り扱うか検討組織を設置して、廃止を含めた上で、合併後1年以内に検討する。

出典:豊かな未来を創造する個性輝く文化田園都市を目指して(資料編)

(3) 開発事業の状況

現在、久喜市内では以下の4つの開発事業が進行中です。

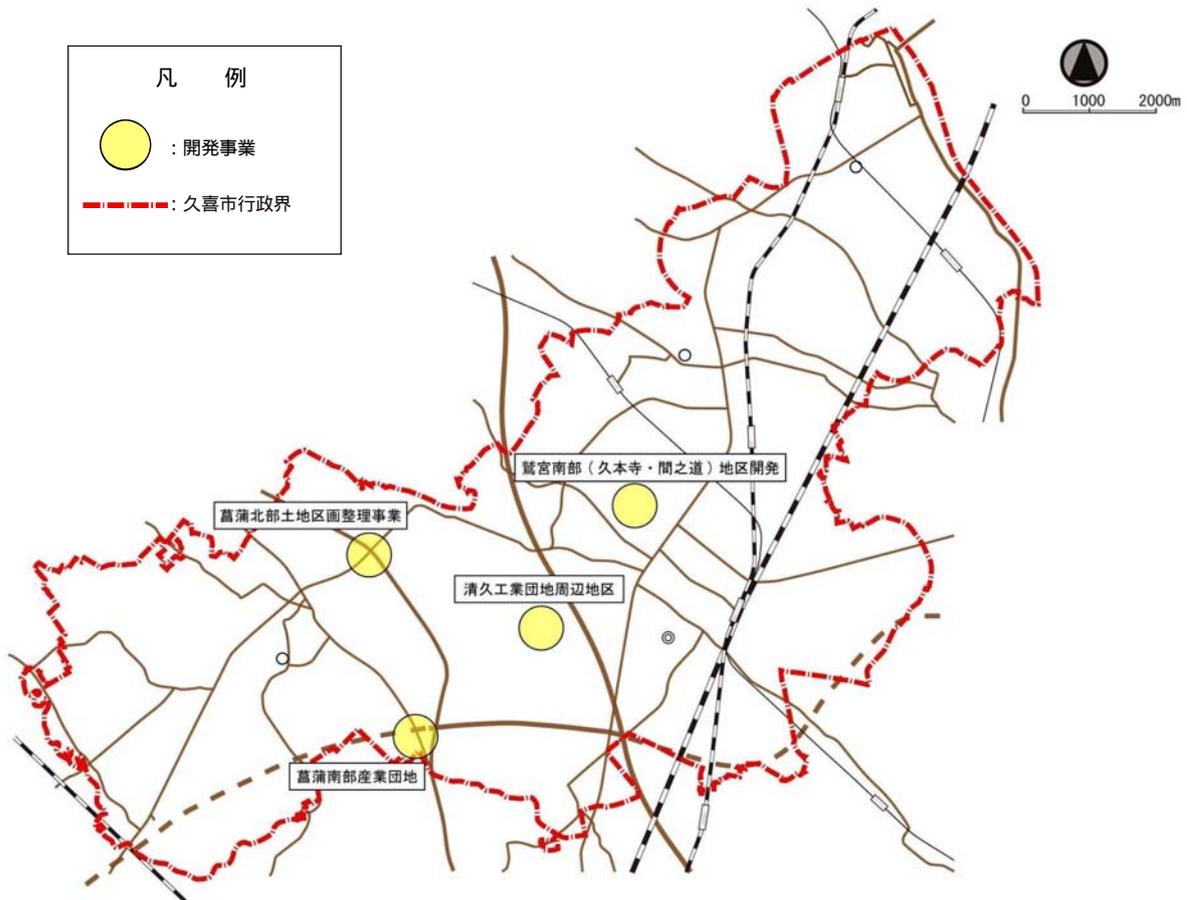


図 久喜市内開発事業位置図

2 都市特性



(1) 位置特性

久喜市は、埼玉県の一部にあり、都心まで 50 km圏に位置しています。東は幸手市及び茨城県五霞町、南は杉戸町、宮代町、白岡町及び蓮田市、西は鴻巣市及び桶川市、北は茨城県古河市、加須市と接しています。面積は82.4 km²、距離は北東から南西方向が約 16.5 km、北西から南東方向が約 7.0 km あります。

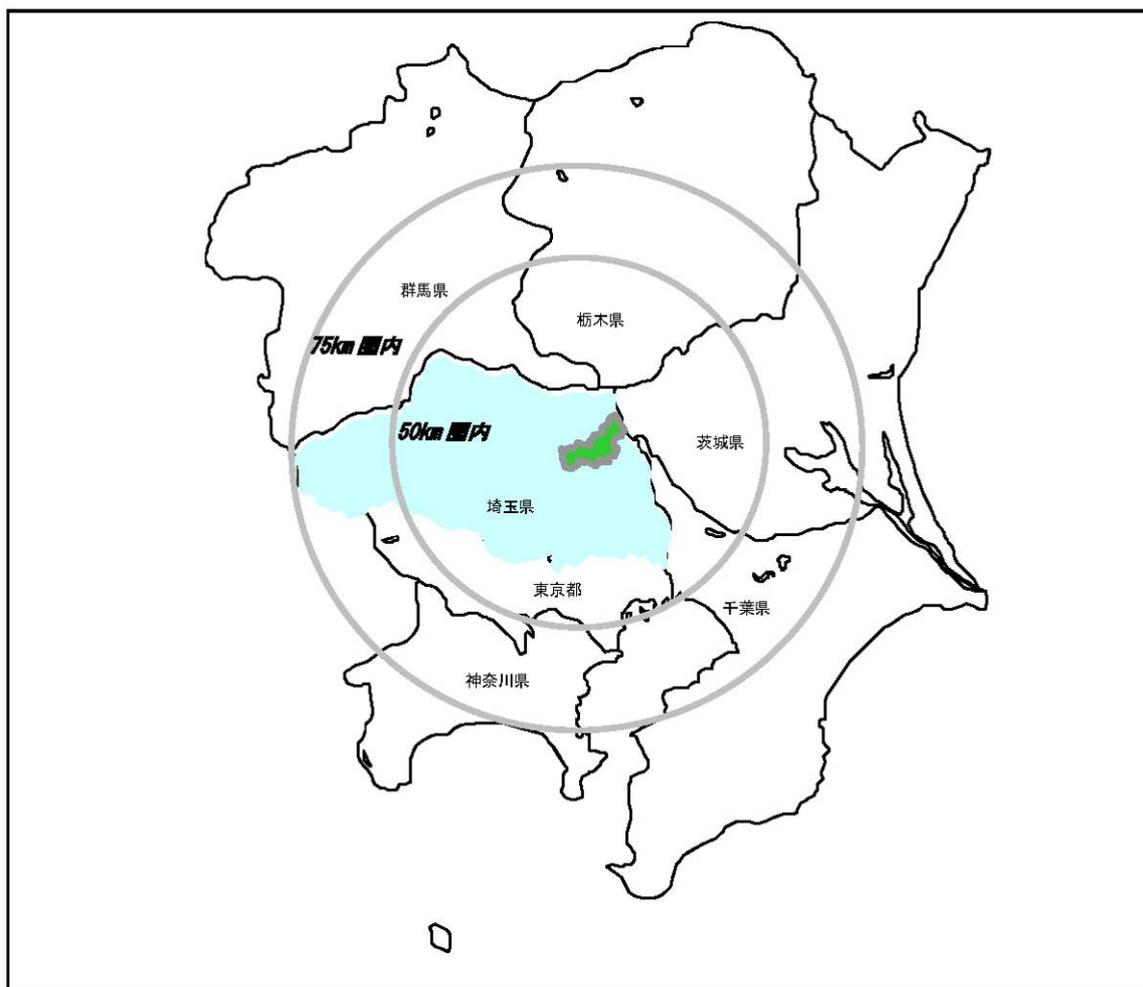


図 久喜市位置図

(2) 地形・気候

久喜市は、利根川の沖積平野にあり、市域全体がほぼ平坦な地形となっています。

気候は、夏は高温多湿、冬は低温乾燥で、内陸性の太平洋側気候に属しています。平均気温は約 15℃、年間降水量は約 1,160mm です。

(3) 人口の動向

①人口

総人口はほぼ横ばいで推移しています。地区別にみると、鷺宮地区は増加傾向にあります。また、栗橋地区は横ばい傾向で、久喜地区と菫蒲地区は減少傾向にあります。

年齢別にみると、14歳以下人口と15歳～64歳人口の構成比は減少傾向にあり、65歳～74歳人口と75歳以上人口の構成比は増加傾向にあります。65歳以上人口の構成比（高齢化率）は、県全体19.6%に対して20.2%と若干高く、新市基本計画の将来人口推計によると、平成26年には25.0%に達する見込みです。

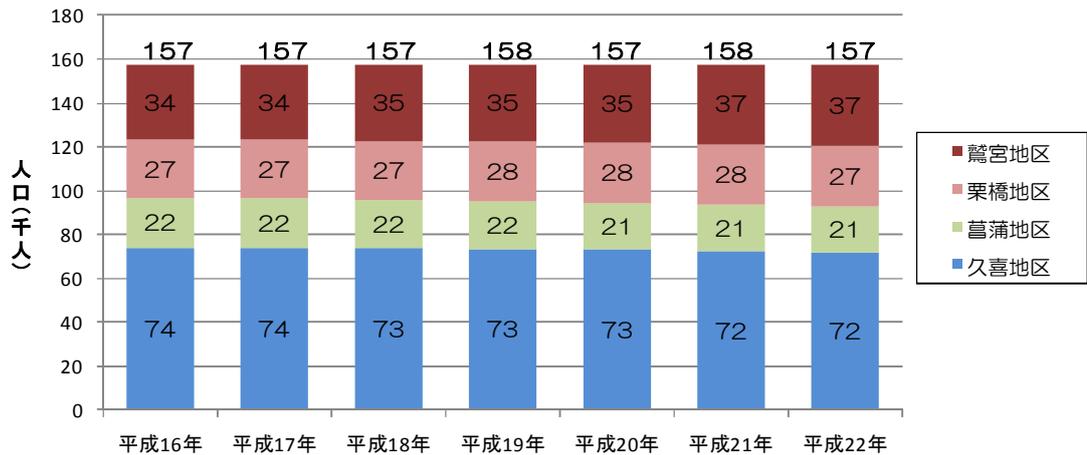


図 久喜市の人口の推移(地区別)

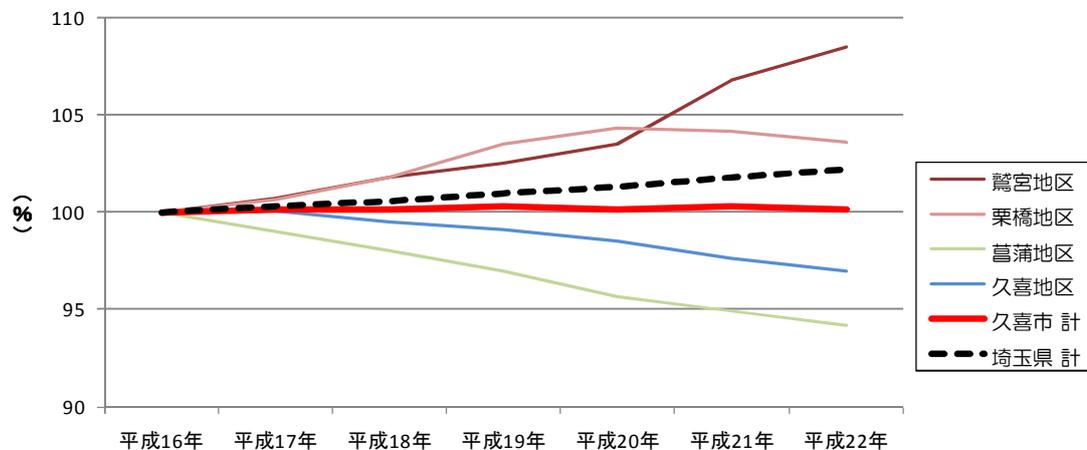


図 人口の増減率(平成16年を100%とした比率)



図 年齢別人口構成比の推移

資料:住民基本台帳(平成16年～平成22年 各年1月1日現在)

地域別に人口分布をみると、鉄道駅を中心とした地域と菖蒲地区北部地域で人口が集積しています。また、高齢者の人口分布についても地域別の人口と同様の傾向がみられます。

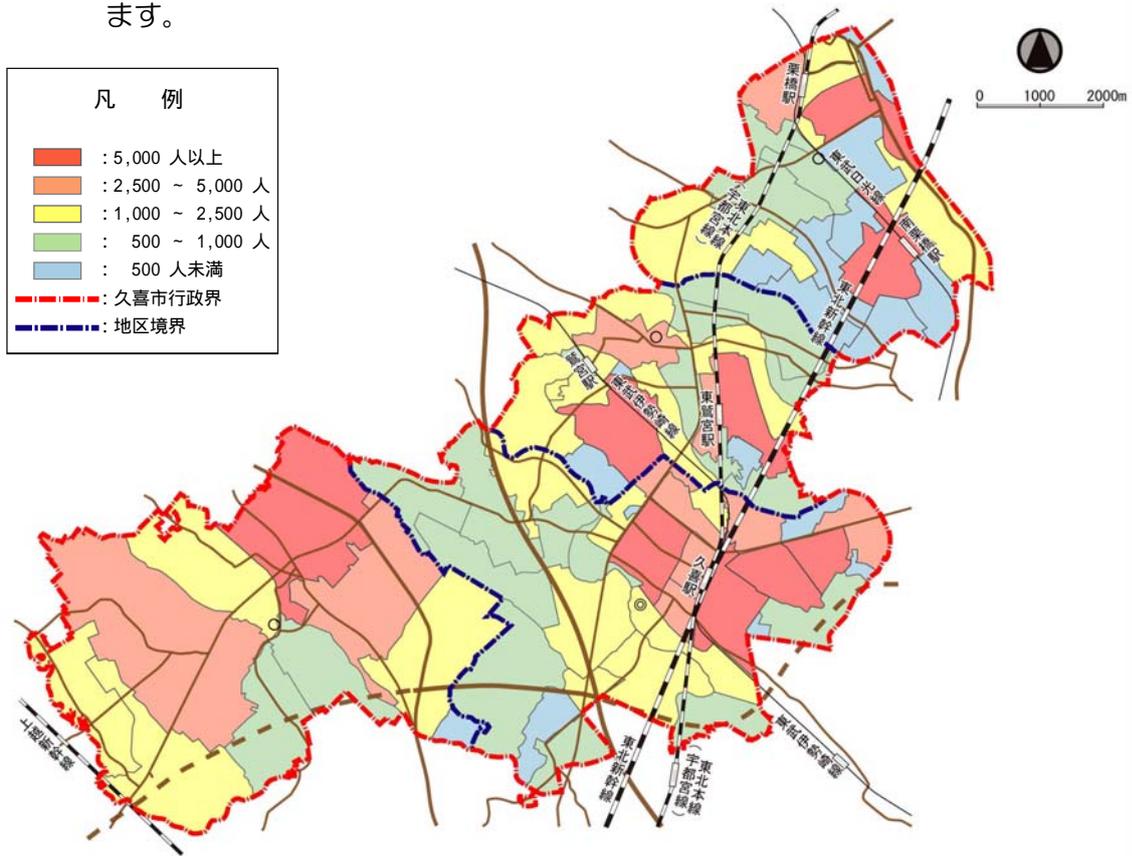


図 地域別人口分布

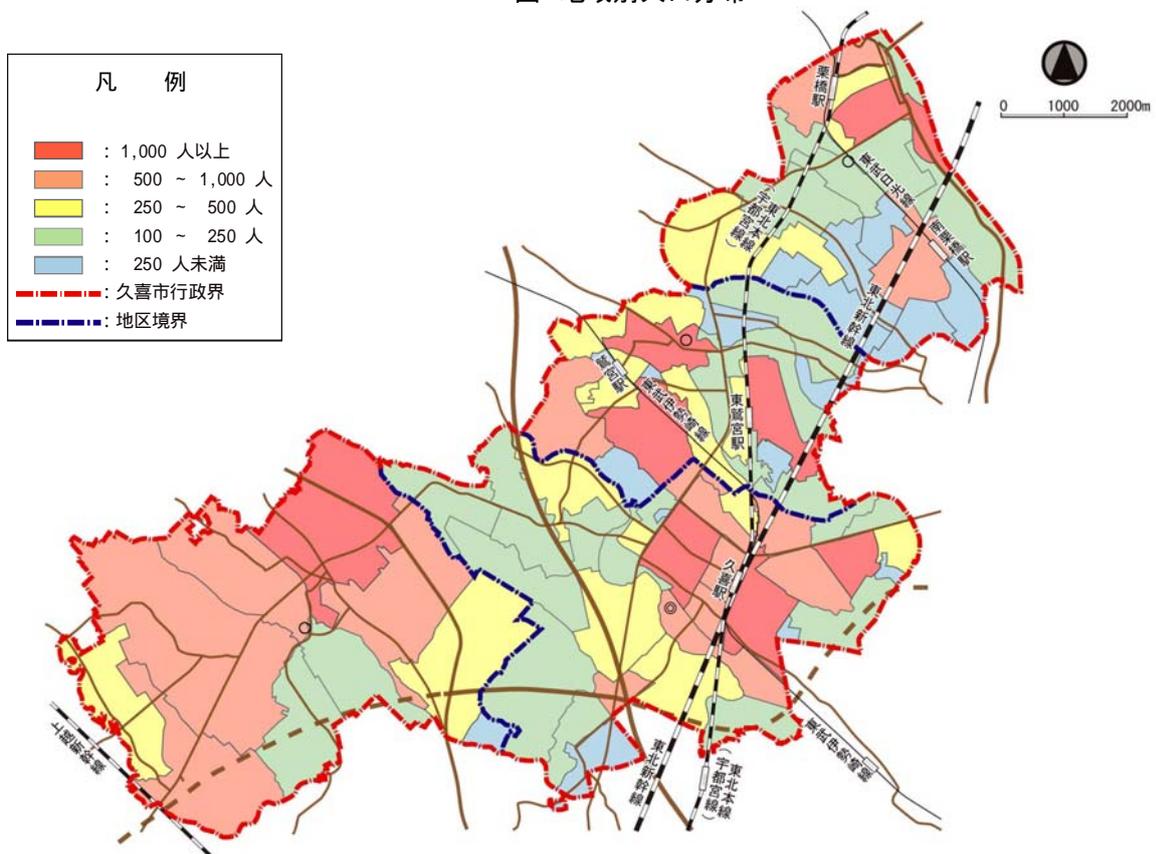


図 地域別高齢者(65歳以上)人口分布

資料:住民基本台帳(平成22年1月1日現在)

②人口密度

地域別に人口密度をみると、鉄道駅を中心とした地域と久喜駅から東鷲宮駅、久喜駅から鷲宮駅の鉄道沿線で人口密度が高くなっています。

また、高齢者の人口密度についても、地域別と同様の傾向がみられます。

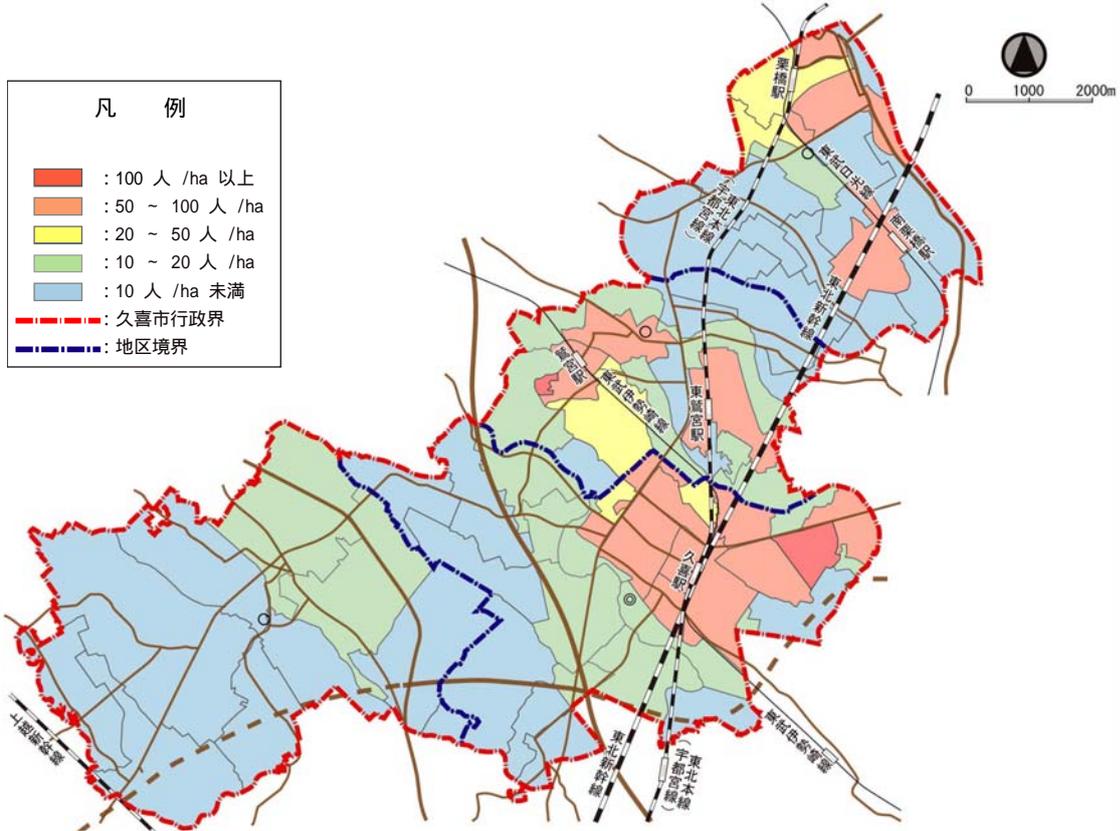


図 地域別人口密度分布

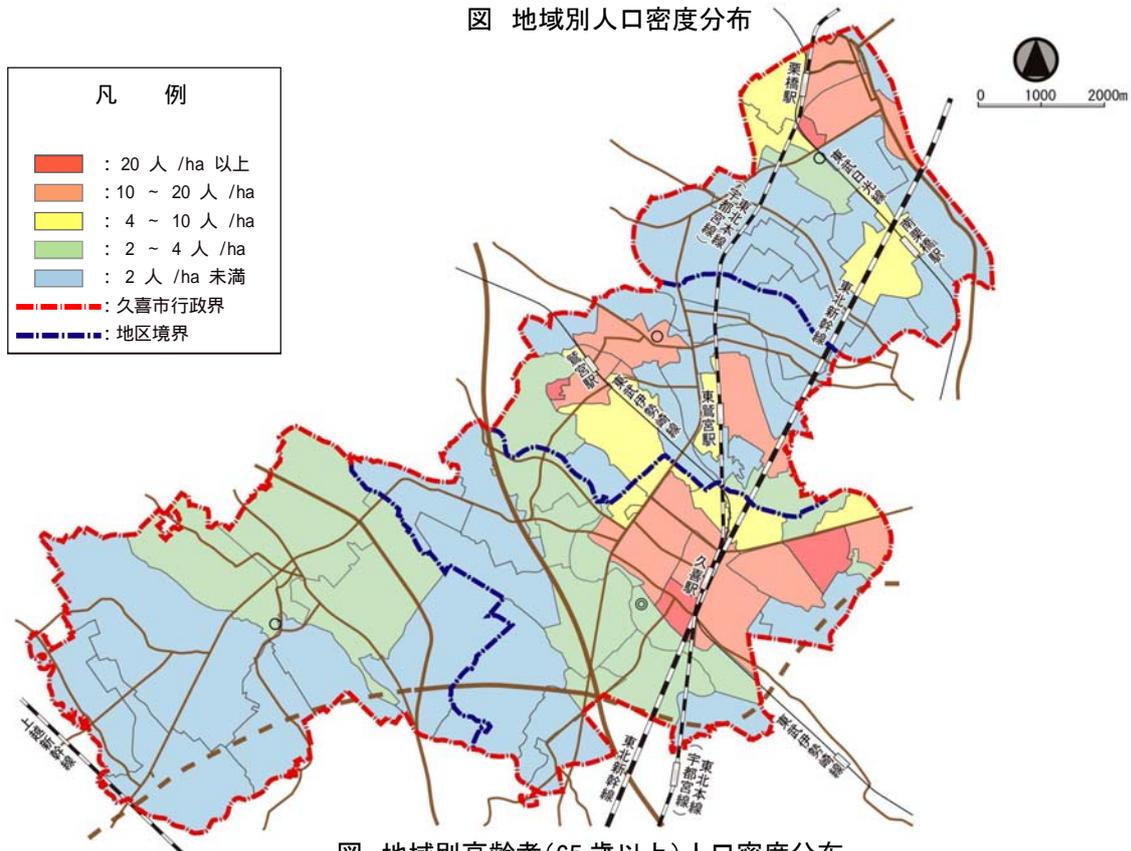


図 地域別高齢者(65歳以上)人口密度分布

資料:住民基本台帳(平成22年1月1日現在)

③将来人口

平成 17 年の国勢調査人口を基に、コーホート要因法により推計した人口に、現在進行中の開発事業により見込まれる人口増加分を加えて、将来人口を推計しています。

総人口は、平成 12 年から平成 17 年にかけてわずかに増加しています。推計では、平成 22 年まで増加し、その後は減少していくものと見込まれます。

また、年齢別人口は、出生率の低下と平均寿命の伸長により、年少人口の割合は、平成 17 年の 13.4%から平成 31 年には 11.1%まで減少するものと見込まれ、一方、高齢者人口の割合は、平成 17 年の 16.4%から、平成 31 年には 28.8%まで増加するものと見込まれます。

世帯数は、平成 17 年の 53,866 世帯から、平成 31 年には 63,037 世帯へと増加するものと見込まれ、1 世帯当たり人員は、平成 17 年の 2.9 人から平成 31 年には 2.5 人へと減少するものと見込まれています。

表 人口・世帯数の見通し

		平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 26 年	平成 31 年
総人口		154,292 人	154,684 人	159,130 人	157,434 人	154,855 人
年齢別人口	年少人口 (15歳未満)	23,379 人 15.2%	20,794 人 13.4%	19,274 人 12.1%	18,655 人 11.8%	17,266 人 11.1%
	生産年齢人口 (15歳～65歳未満)	110,988 人 71.9%	108,508 人 70.1%	107,648 人 67.6%	100,081 人 63.6%	93,053 人 60.1%
	高齢者人口 (65歳以上)	19,832 人 12.9%	25,328 人 16.4%	32,208 人 20.2%	38,698 人 24.6%	44,536 人 28.8%
世帯数		50,459 世帯	53,866 世帯	60,727 世帯	62,216 世帯	63,037 世帯
1 世帯当たり人数		3.1 人	2.9 人	2.6 人	2.5 人	2.5 人

出典:新市基本計画

④流出人口

各地区からの通勤・通学先について、上位3位まで整理しました。

(ア)通勤(15歳以上)

久喜地区は地区内に通勤する人が37.4%と最も多く、次いで、東京都、さいたま市が多くなっています。菖蒲地区も地区内に通勤する人が39.8%と最も多く、次いで、さいたま市、久喜地区が多くなっています。栗橋地区も地区内に通勤する人が29.5%と最も多く、次いで、東京都、加須市が多くなっています。鷲宮地区も地区内に通勤する人が24.5%と最も多く、次いで、東京都、久喜地区が多くなっています。

(イ)通学(15歳以上)

久喜地区と栗橋地区は地区内に通学する人が27.2%、21.4%と最も多く、次いで、東京都、さいたま市が多くなっています。菖蒲地区と鷲宮地区は東京都に通学する人が22.7%、24.8%と最も多く、次いで、地区内、さいたま市が多くなっています。

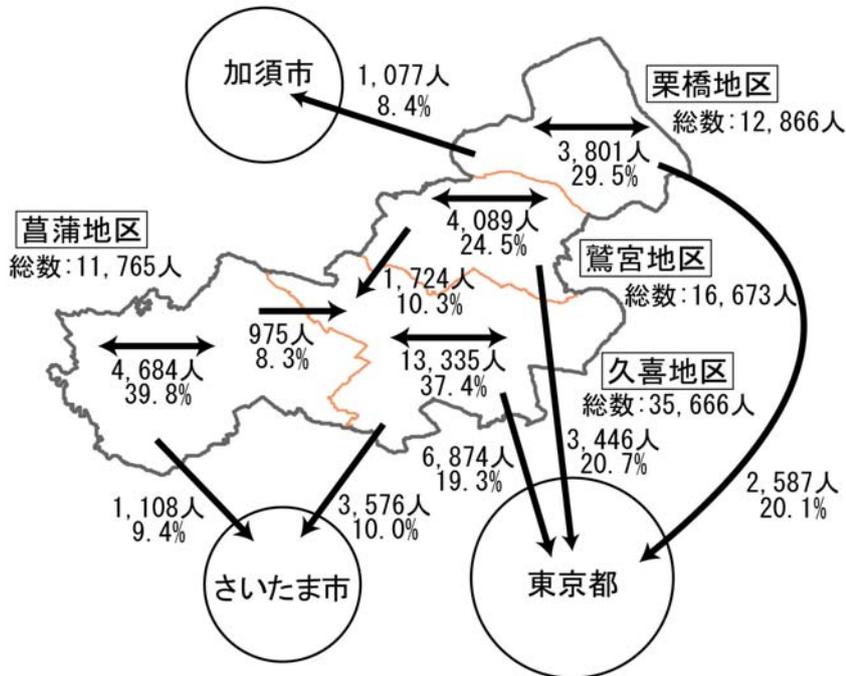


図 通勤先

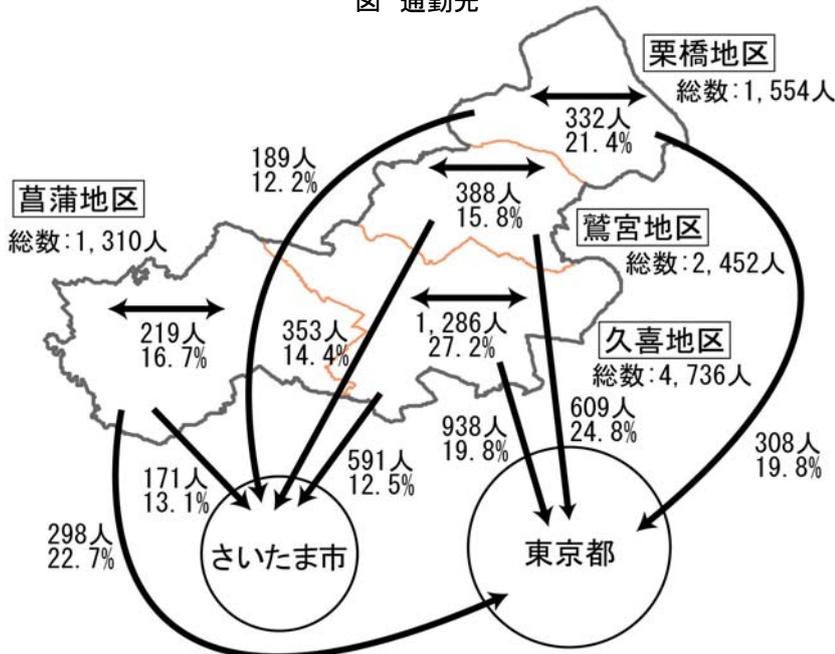


図 通学先

注) 図中の数値について
 総数: 地区に常住している15歳以上の就業者数及び15歳以上の通学者数を示す。
 人: 地区から自治体等に就業及び通学している人数を示す。
 %: 上記の人数が総数に占める割合を示す。

出典:平成17年国勢調査

(4) 主要施設の分布

公共施設は、鉄道駅、市役所・総合支所等を中心に分布しており、人口集積がみられる地域の分布とおおむね整合しています。久喜地区には平成 23 年 4 月に開院した厚生連久喜総合病院、栗橋地区には済生会栗橋病院があります。

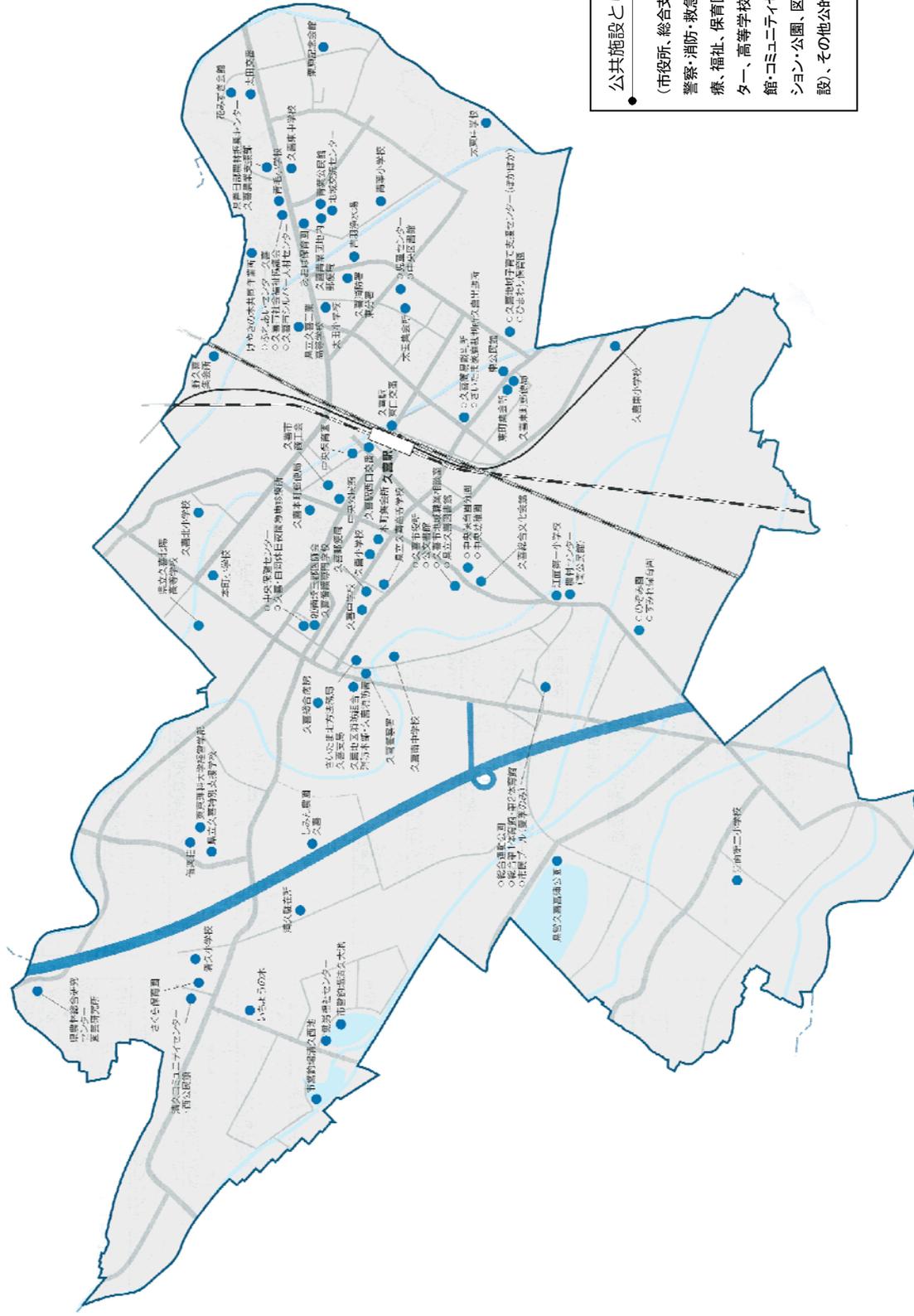


図 久喜地区

資料：新・久喜市暮らしのガイドブック

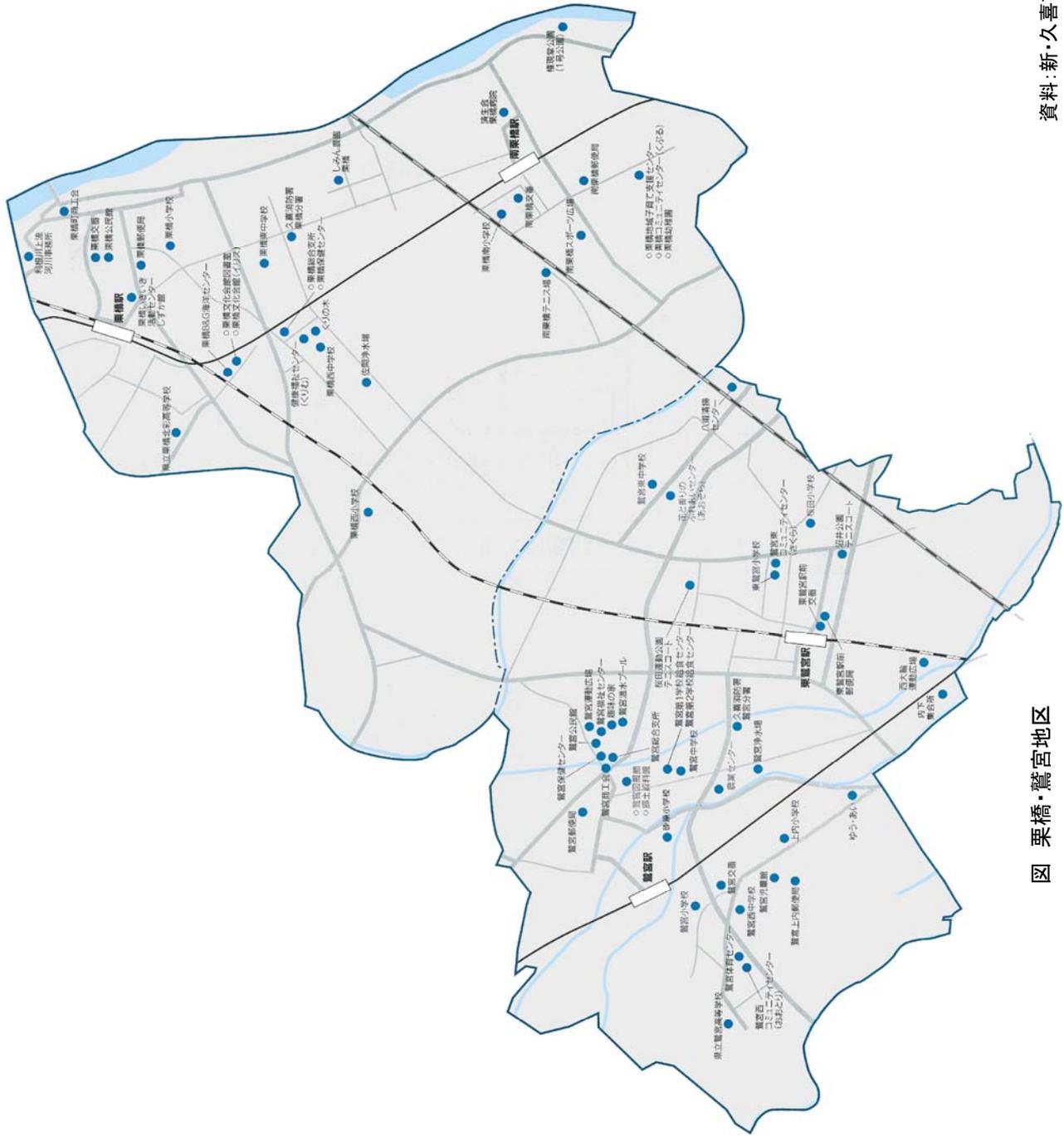


図 栗橋・鷹宮地区

資料：新・久喜市暮らしのガイドブック